

ポジティブ思考で、梅大使に。

江戸川大学マス・コミュニケーション学科4年生の伊王野求美さんが梅大使になった。これから1年間、水戸市の観光PRを務める。入学したころは引込み思案だったが、4年間で大きく成長し、自ら梅大使に応募した。ポジティブな姿勢がすてきな花を咲かせたのだ。(文:後藤諒平 撮影:ブン・ショウ)

「一言で言うと、空を飛ぶような気持ちでした。間違いない人生で一番うれしい瞬間でした。」

「満面の笑みを浮かべている、伊王野求美さんは日本三名園にも数えられる借楽園を訪れた。江戸川大学4年引つ込み思案な性格でマイネ」と尋ねた。

「あなたには近くから見ると、魅力的だが、遠くから見たときには魅力は全く感じない。」と厳しい言葉が返ってきた。

「それは、それまでの道のりは楽な道ではありません。しかし、それまでの道のりには、誰も教えてくれないものはないんですか」と尋ねた。



「その答えは「目線」だった。その36人に残った。」「しっかりと目を見て話せば気持ちも伝わるし、普段意識しないものだけどすごく大事なものだよ」

「それからは目を合わせて話すところをわかった。」

最終選考では伊王野さんの名前は9人目まで呼ばれることなく、あきらめかけた。そのとき、伊王野さんの名前が聞こえてきた。

しかし、喜びも束の間、梅まつりがはじまって二日目におばあちゃんはじくなった。

「天国に行ったおばあちゃんに恥をかせないために、一日も休まずに、感謝の気持ちを込めて自分のお勤めを果たしたい。」

おばあちゃん子だった伊王野さんはけなげである。江戸川大学の4年間は変身期間だったのだろう。梅大使として伊王野さんは蘭をやぶり、ポジティブな女性となった。おばあちゃんも天国でよろこんでいるはずだ。



上: あでやかな梅柄の和服があい伊王野さん。取材時にはまた二部咲きだった。下: 水戸市マスコットキャラクターみとちゃんをかこんで。梅大使は全部で10人。じつは、男性でも梅大使に応募できる。まだ選ばれたことはないけれど。

学生記者募集!

学生記者クラブは、学内外のイベントや、部活動、サークル活動などを取材します。

記事は「江戸川大学学生新聞」として発行するだけでなく、ウェブにもアップして世界に向けて発信していくプロジェクトです。

「Journalism」とは「発見や感動を相手に伝えること」。あなたもジャーナリストになろう!

N棟1階の受付にお気軽に声をかけてください。連絡先: TEL(04-7152-9908)E-mail(kouhou@edogawa-u.ac.jp) 企画総務課